

伊勢市総合計画策定にかかるワークショップの結果について

伊勢市では、市の最上位計画である第3次伊勢市総合計画を策定するための参考とするため、ワークショップを実施しました。

| | |
|------|--|
| 内容 | 市の目指すべき将来像等を語る住民参加のワークショップ 【テーマ】 ・伊勢市のどのようなところが好きですか？ ・12年後の伊勢市はようになっていたら素敵ですか？ ・理想の伊勢になるためにはあなたは何かができますか？ |
| 参加対象 | 「総合計画策定に向けた市民意識調査【※】」にご協力いただいた方のうち、ご関心をもっていただいた方 【※】住民基本台帳から無作為抽出により3,500名を抽出（平成29年度に16歳～80歳となる方）し、市民意識調査を実施（回答率33%）。調査対象時にワークショップの案内を同封。 |
| 開催日時 | 下記のとおり |
| 参加者数 | 下記のとおり |
| その他 | ワールドカフェ方式で実施。 ファシリテーター：皇學館大学教育開発センター 助教 池山 敦 氏 |

| | 日時 | 場所 | 参加人数 |
|----|----------------------------------|--------------------------|------|
| ① | 平成29年7月29日（土） 午後1時30分～午後3時30分 | 伊勢市生涯学習センター 2階 学習室2 | 10人 |
| ② | 平成29年7月31日（月） 午後1時30分～午後3時30分 | 伊勢市ハートプラザみその 2階 保健会議室 | 6人 |
| ③ | 平成29年7月31日（月） 午後6時30分～午後8時30分 | 伊勢市ハートプラザみその 2階 保健会議室 | 8人 |
| 合計 | | | 24人 |



当日のプログラム

| プログラム | | |
|------------------|-----|--|
| 13:30 (18:30) | 15分 | ごあいさつ、総合計画についての説明 |
| 13:45 (18:45) | 5分 | 進行についての説明 |
| 13:50 (18:50) | 25分 | ワークショップテーマ① 「伊勢市のどのようなところが好きですか？」 |
| 14:15 (19:15) | 5分 | 休憩 |
| 14:20 (19:20) | 25分 | ワークショップテーマ② 「12年後の伊勢市はどうなっていたら素敵だと思いますか？」 |
| 14:45 (19:45) | 25分 | ワークショップテーマ③ 「理想の伊勢になるためにあなたは何かができますか？」 |
| 15:10 (20:10) | 15分 | ふりかえり（他のグループの対話の内容を知る） |
| 15:25 (20:25) | 5分 | まとめ、終了ごあいさつ |

【テーマごとの主な意見】

テーマ① 伊勢のどのようなところが好きですか？

- 豊かな自然（神宮を含む）
- 伊勢神宮の存在
- 歴史・文化・伝統
- 静粛な雰囲気
- 市民の気質
（施行・おもてなしの心・他人への配慮などやさしさ、温厚、穏やかで大らかな性格）
- 伊勢弁（言葉が優しい）
- 住民の地域に対する想い、地域愛
- 祭、遷宮行事等伝承による地域・世代間のつながり、住民力
- 20年周期で盛り返す
- ちょうど良い人口規模
- 都会と田舎の中庸なところ
- 平穏な生活環境（災害、事件・事故が少ない）
- 海の幸・山の幸が豊富
- 子育て環境が良いところ
- 知名度（観光名所、食など）
- 物価の安さ（ゴルフ代、家賃）
- 便利・安全（電気屋・医者が多い、交通の利便性）
- おいしい水道水
- 観光客と交流できるところ
- 観光スポットが多いところ
- 小俣図書館
- お伊勢さんマラソン

テーマ②12年後の伊勢市はどのようになっていたら素敵ですか？

- 人口は現状維持
- 観光によって賑わっている（内宮・外宮周辺に加え二見旅館街の賑わい、市内回遊）
- 伊勢ブランドを生かしたまちづくりが進められている。
- 海外に認知されるまちになっている。
- 住んでよし、訪れてよしのまちになっている。
- 若者が働きやすい場所、働く場所が増え、定住人口が増加している。
- すべての人が生きがいを持って生活できるまちになっている。
- 地域の人々のつながりが深いまちになっている。
- 地域の祭や行事が継承されている。
- コミュニケーションがとれ、人々のふれ合い、交流が活発なまちになっている。
- 高齢者が快適に暮らせるまちになっている。
- 福祉が充実している。
- 年寄りが役に立つ仕事がたくさんあるまちになっている。
- 子どもたちの元気な声が聞こえるまちになっている。
- 子育てしやすいまちになっている。
- 知の循環（生活困窮世帯の学習支援による貧困の連鎖の解消）ができています。
- 安全・安心なまち、災害に強いまちになっている。
- 地産地消が進んでいる。
- 商店街が活性化している。
- 交通の便がよいまちになっている。
- バリアフリーが進んでいる。
- 伊勢市駅から外宮までの間が、神宮の鳥居前まち（神都）としての雰囲気を感じられるようになっている。
- 外宮・内宮間に市電が走っている。
- スポーツ・文化施設が1箇所に集約されている。
- 有効活用による空き家の解消・解決、廃校舎の有効利用がされている。
- 無電柱化
- ケーブルカーが復活し、朝熊山の自然が満喫できるようになっている。
- 伊勢まつりに更に人が集まっている。
- 公共施設が自由に使用できるようになっている。
- 祝祭日に国旗が掲揚されている。

テーマ③理想の伊勢市になるためにあなたは何かができますか？

- 人脈・ネットワークの提供
- 健康の保持
- おもてなし対応
- 地域でのゴミ拾いによる、自然保全など
- ボランティア活動
- 自宅等財産、仕事、趣味を生かした社会貢献
- 市民参画（市に対する意見など）
- 自治会活動、行事等への参加によるつながりの構築
- 家庭教育
- SNS を利用した市のPR、情報発信
- 人の集まる機会の増加
- 防災訓練の充実
- 英語力を身に付けて世界に発信すること。

伊勢のどのようなところが好きですか

- 市民の気持ち＝おもてなし
- 市民の雰囲気(家の鍵を閉めなくても大丈夫)
- 祭り・遷宮行事等の伝承による
 - ①世代間のつながり、②住民のpower、③地元のつながり(町内、町と町)
- 住民の地域への愛着・想い
- 穏やかに暮らせる
- 災害も少ない
- 事件・事故も少ない
- 人の暮らしと人口規模の割りに自然が多い(乱開発ない)＝自然と共存
- 神宮がある(日本史にも登場、ロマンがある、日本の原点)
- 20年周期で盛り返す

- 自然環境そのものが好き。神宮も含まれる。
- 伊勢市は自然環境という極上の素材があるまち
- 神宮は県外でも有名で、名前を出せば県外の人たちとすぐ友達になれる。
- 神宮のゆるやかな空間が好き
- 市内外から喜ばれている蓮台寺柿が好き

- 終戦後と今では全然違うが...両宮が好き。崇拜とかではなく、和やかな雰囲気が。
外宮と内宮では商売人が違う。内宮は観光客が相手、外宮は食の神様でより市民に密着している。
- 自然がおおいところが好き。昔から自然が遊び場だった。心が和む。
- 田んぼが回りに多いところが好き。
子どもは騒いでなんぼ。遊具とかで遊ぶのではなく、自然で学ばせる。
- 玉城の人はフレンドリーだが、伊勢の人は警戒心が強い。←好きなおところではない

- いい人が多い(他の地域の人からも言われることがある)
- 人が多過ぎず少な過ぎず 程よくリラックスできる
- 伊勢神宮(学生時代は嫌いであったが、地元を離れ良さがわかった)
- 自然が豊かなところ 神宮の森によって守られている
- 祭りが多い そのためか地元の繋がりが強くまとまっている
- 小俣図書館 雰囲気が良く落ち着く(参加者4名全員共通)

- 伊勢弁の優しさ(伊勢と言ったら全国民は知っている、言葉が優しい)
- 困っている人に対し声を掛けたりする「施行の心」
- 子育ての環境の良い街
- 「静」「静粛」なイメージ
- 宮川を越えたら「ほっ」する近鉄電車
- 山の幸、海の幸が豊富～他にない
- 目配り、気配りが出きる伊勢市民
- 自然が豊富 伊勢道路～長野県に似た状況

- 海が近くにあるので釣りに行くことができるところ。
- 田舎なわりには、交通の便が良いところ。
- 伊勢神宮があり人が集まること。(自然が広がり、歴史的文化がある。)
- 県外の仲間も行ったことのある伊勢神宮があり、共通の話題で仲よくなれるところ。
(サミットも話題に上がった。外宮と内宮をバスで結んでいるのはよい。)
- 伊勢と聞くと話題が続くところ(おかげ横丁・赤福・糸印せんべい)
- ゴルフ代が安いところ。(観光に活かしては?)
- 家賃が安いところ。(空き家も多いので、古民家再生も良い。)
- 電気屋や医者が多いところ。
- 地元の祭り(二見大祭)があり、人のつながりがあるところ。(式年遷宮があることも大きい。)
- 人がのんびりしているところ。(おとなしい)
- 人と人とのつながりがあり、関係もよいところ。
- 水質の良い宮川があり、川で泳げるところ。

- 自分は転勤族だが、伊勢に来て水道の水がおいしいことに驚いた。
- 近距離に豊かな自然がある。
- 神宮で森林浴もできる。
- 都会でもなく田舎でもなく、全国平均的なところ。
- 歴史・文化があるところ。
- 伝統を守っているところ。(⇒古い気質を変えられない)
- 観光客と交流できるところ。
- 市民が地元外の人(観光客など)を好んで受け入れている。
- お客さんが来たときに案内するところに困らないところ。
- 好きなおところない(転勤でいろんな都市に行ったが、松江が一番良かった)
- お伊勢さんマラソン

※枠内はテーブル毎の意見の集約

29日(土)午後1時30分～午後3時30分・・・3テーブル

31日(月)午後1時30分～午後3時30分・・・2テーブル

31日(月)午後6時30分～午後8時30分・・・2テーブル

12年後の伊勢市はどうなっていたら素敵ですか

- 前々回の遷宮では内宮周辺(おはらい町)、前回は外宮周辺が活性化したが、二見の旅館街にもぎわうようになると良い
- 拠点型の観光から、市内を周遊するようなエリア観光へ
- 夜の神宮は雰囲気が良い、また、別宮・摂社・末社など、魅力的な資源が有る
- バスの料金が高等いなど、二次交通が弱い(周遊性が確保できるように)
- 伊勢市駅を降りてから外宮までの間、神都の雰囲気が感じられるようになると良い
- 宇治山田駅周辺も、文化財である駅舎、観光文化会館、澤村榮治関係等の資源があるのに、暗い感じがする(明るい雰囲気になり活性化に期待)
- 遷宮による周期的な活性化が、伊勢市民のメンタルに悪影響(「いずれまたよくなる」とのマインドを形成し、危機感等の継続を阻害)
- 「伊勢」というブランドを生かしたまちづくりが必要
- 単体での集客等は難しいため、スポーツ施設や文化施設を一箇所に集積すれば、利用価値が高まる

- 若者が働きやすい場所
- 空き家、廃校の有効利用(グループホーム、高齢者と子どもがふれ合い場所作り)
- 人口が減ってもバランスの取れた社会(環境整備)
- 定年後入居できる施設(伊勢市で生まれ育ったのだから将来も伊勢市で住める施設)
- 無電柱化(外国を見習う)

- 地域の人々のつながりが深いまち(行政も含めて)
- お年寄りが役に立てる仕事がたくさんあるまち
- すべての人が生きがいを持て生活できるまち
- 人々がコミュニケーションのとれるまち

- 地域で塾に行けないような子供の学習を支える環境がもっと整い、教えてもらった子供たちが将来に子供たちを教えるような循環ができればよい
- 子供たちに伊勢の良さを伝え、将来どうしていくと良いか考えてもらう機会を継続的に与えることが大切
- 高齢者にも快適な街
 - ・高齢者の活用を進める
 - ・市街の空洞化対策
 - ・通勤通学、市内の移動用バスの運行増
- 地産地消をすすめる
- 人口は現状くらいを維持
- 伊勢の体験活動を積極的に実施し、伊勢をもっと知ってもらおう
- 日本国旗が掲げている街(祝祭日に国旗をあげる家が少なくなった)

- 働く場所があるまち
- 市民にとっても観光客にとっても全方位でよいまち
- 安心安全なまち
- 子どもたちの遊んでいる声やあいさつする声が聞こえるまち
- 三重県は南北に長いので通学が困難。他県に通学するのも難しいので、交通の便がよくなって欲しい。
- バリアフリーが推進している市になって欲しい
- 空き家対策が進むと、野良猫の住みかにならない、放火されることもなくなる。

- 日本では有名になってきたので、世界でも知られるようになったら。(県と共にPR)
- 外宮と内宮が市電で結ばれたら。(車以外の移動となり、環境にも良い。参宮線にSLを)
- 地域の行事・祭りが残っていれば。
- 大祭りにもっと人が集まれば。(全国に広まるようにし、みんなが参加できるように。)
- 災害に強い町になる。
- 福祉のことが充実すれば。(高齢者も増えるので。)

- 学校が統廃合されるが、校舎の跡地利用として、多世代が交流できる集いの施設になっていれば良い。そこで、元美術の先生などが絵画教室を開いたりできるようになれば良い。
- 小学校区単位でまちづくりを進めているし、空校舎を拠点とした、交流拠点が出来ているとよい。
- 商店街が活性化していれば良い。核となる商業施設進出してきて商店街の活性化に寄与して欲しい。
- 住民(特に年寄り)が“外”に出たくなるような、交流施設があると良い。
 - ※年寄りは何か目的がないと外出しない。家に籠ってします。あいさつをする・される、声を掛けられるだけでもうれしい。学生にあいさつされると、とてもうれしい。
- 朝熊山の自然が満喫できるような、整備がなされていることを期待する。
 - (ケーブルカーの復活)
- 住んでみたいまち、人とのふれあいが活発なまち
- 公共施設(校舎など)を自由に使用できるようになっていければよい。
- 個人情報保護の関係で人々のふれあい、交流がしにくくなっているの、何とかなっていれば良い。
- 大きな企業が誘致されていて、働く場所が増え定住人口が増えてほしい。
- 子育てしやすいまちになってほしい。子どもを産むとお金がもらえる。
- 空き家対策が有効施策により解消・解決してほしい。

理想の伊勢市になるために何ができますか

- 様々な人脈・ネットワークの提供(個人・事業所等が有する“つながり”の活用)
- ラボ、研究所等の教育研究機関との連携が大切
- 個人個人が健康を気遣うことで、福祉財源の削減にもつながる
- 若者はお金がかかる → 裕福な老人をターゲットに移住促進を
→ 福祉サービスの雇用にもつながる …… でも、駅前に不動産関係業者が見当たらないなど、受け皿が整っていない → 行政だけでなく、民間での受け皿が必要
- 観光は行政や観光業者だけでなく、一般市民の「おもてなし」の対応が重要
- 根付や一刀彫など、伊勢の伝統的なものをつなげていく活動が必要
(工芸家と販売業者等、民・民がつながることが必要)

- 自然と触れ合うことができる町(自然の維持、今の子どもは虫も触ることが出来ない)
- ボランティア活動(ペットボトルのキャップで、ワクチンが買えるボランティア活動を実施中)
- 高齢者の話し相手
- 今の仕事、趣味を生かす
(跡地を利用して趣味、仕事を生かして地域に「よろず相談所」を作る、コンサート、高齢者との話し相手等)

- 高齢者だが、社会貢献がまだまだできる。
- 自宅を開放して、コミュニケーションを取れる場を作る。
- 若さを活かして、伊勢市のために行動したい。

- 伊勢を 自分の知識を 伝える・教える場があれば参加したい
- 持ち家(空家)を伝える場(塾等)として提供
- 伊勢で人生を終わらせる 死ぬまで伊勢に住む
- 様々な活動に参加する
- 小規模農家を増やしたい。地産地消を進めるため売店を増やす。農地法の改正が必要。

- 市に意見を言う。意見を言うきっかけを作ってもらえば、言いたい人は、思っているよりいるはず(ここでいう意見は批判ではない)。
- 行事をみんなでやれば、つながりができ次の世代につながり、隣の自治会ともつながる。
- まずは、人任せにせず、自分の自治会などの行事に参加すれば、活動は市全体に広がる。
- 基本は、家庭だと思う。子は親を見て育つので。
- まずは一步をふみだせば、つながるきっかけとなる。

- SNSの力を利用して、市のよさをアピールする。
- 人と人とや、地域のつながりを強くするために、人の集まる機会を増やす。
- 若者の意見を政治に生かす。
- 災害に対してハード面だけではなく、訓練を充実させて安心を！
- 地名度を上げるためにも、英語力をつけて世界に発信を！「おもてなしの心」を伝えたい。
- 自然を守るために、地域でゴミ拾い。(地域のつながりで問題を共有する。)

- 今回(WS)のような場で自分の“おもい”を言い続ける！
- 異業種交流会などに積極的に参加し、将来像を語らいながら、仲間(同士)を増やしていく。
- 市方針、命題を決めてもらえれば、それに向けてボランティア等で積極的にお手伝

ワークショップの感想

- ワークショップで出た意見を基に計画を
- 想いは表現できた。伊勢の人が誇りと自覚をもって「神宮」を除いた思考も
- 他の参加者の意見が参考になった。いろんな意見を聞いてよかった。参加することに意義がある。
- 他の人の悩みを聞いてよかった。
- 伊勢を愛している。真剣に考えている。
- 自分の考え方に安心した。
- このようなことをしたことなかったので、良い機会となった。
- 自分の思いが話せてよかった。このワークショップの手法が良かった(意見を出しやすい)。
- 市の職員はいないと思っていたが、ファシリテーターとして、居てよかった。他の市のワークショップは見るだけが多いが、直接意見できてよかった。
- 一歩踏み出せた。自分から意見していこうと思うきっかけとなった。
- このような場をもっと作って欲しい。

- 充実していて時間が早く進んだ。
- テーマ3「あなたは何かができますか」は難しかった。(でも、3つのテーマは良かった。)
- 楽しく話し合うことができた。リラックスできる雰囲気よかった。
- このように話し合えることはいいこと。(このことを、どう生かしてもらえるのか?)
- 自分はまだ若いので足りない部分が多い。今回はいろんな人の意見が聞いてよかった。
- こういう場は必要だと思う。もっと場をつくってほしい。
- 参加者が少ない。もう少し多いほうがいい。
- 来てよかった。無作為で選ばれてよかった。
- 若い子の意見を聴くのは勉強になった。

- このような話し合いの場に多数参加しているが、知っている人が居ない会は初めて。とても新鮮で有意義な場であった。
- 伊勢についてお話することができて感激している。
- 転勤族だが、伊勢にいる間は、何か役に立つことがしたい。転勤で伊勢を離れてまた何年か後に伊勢に戻ってきたときに、自分がお手伝いしたことが実に成っている、変わっていることを期待する。
- それぞれの方々が同じ課題を抱えているのがわかってよかった。
- 明日からの私の行き方のヒントになります。
- 一期一会。パート2、パート3を開催して欲しい。
- 色々な立場の話を受けて良かった。意見を出しっぱなしでなく、実現したい。

「伊勢市はこんなまちであってほしい」を語りあいませんか

総合計画策定にかかるワークショップ

参加者
募集

伊勢市では、平成 30 年度から計画期間とする「総合計画」の策定に着手しています。「総合計画」とは、長期的な視点から、市の目指すべき将来像とその実現に向け必要な諸施策の方向性を示す、市の最も基本となる計画です。

その計画を策定するにあたり、市民の皆さんの声を聞かせていただきたく「ワークショップ」を開催します。



総合計画策定に向けた市民意識調査にご協力いただいた方のうち、ご関心をもっていただいた方を対象にさせていただきます。

内容

参加人数に応じて、グループにわかれ、オープンに意見を出し合ってください。

【参加者へのお願い】5年後、10年後「伊勢市はこんなまちであってほしい」を事前にイメージ願います

- ◆主催：伊勢市
- ◆ファシリテーター：
皇學館大学教育開発センター
助教 池山 敦 氏

開催場所・日時

※全て同じ内容です。ご都合の良い日時（いずれか）にご参加ください

| | | |
|---|--|---------------------------|
| ① | 平成 29 年 7 月 29 日（土） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分 | 伊勢市生涯学習センター 2 階 学習室 2 |
| ② | 平成 29 年 7 月 31 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分 | 伊勢市ハートプラザみその 2 階 保健会議室 |
| ③ | 平成 29 年 7 月 31 日（月） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分 | 伊勢市ハートプラザみその 2 階 保健会議室 |

※事前に参加人数を把握させていただきたいので、お手数かけますが、参加の可否をおハガキにてご回答ください（7月10日（月）までにご投函願います）。

※各会場までの交通費などの支給はありません。

※皆様の申込状況により、日程の変更をお願いすることがございますのでご了承ください。

※託児をご希望の方については、事前にお問い合わせください（準備の都合上、7/10までにお願います）。

【お問い合わせ先】

伊勢市役所 企画調整課 TEL:0596-21-5510 E-mail:kikaku-cyousei@city.ise.mie.jp

